

# 道心



# 喜心・老心・大心

禅昌寺住職 横山 泰賢

本堂の前の牡丹が、例年より少し遅

れて漸く開花しました。今朝は数時間の内に五つ六つと赤や紫の花が開き、牡丹の溜息が聞こえてきそうなほどです。大自然のエネルギーと命の尊さを感じます。

さて、昨年十一月に禅昌寺住職を拝命し早半年が過ぎ、住職の責任の重さと奥深さを感じながら、十月の晋山式（就任式）並びに記念授戒会に向け準備を進める日々を過ごしております。

先般皆様にも、十月の大法要のご案内とご説明を郵送させて頂きましたところ、早々に申込みやお問い合わせを頂き、誠に有り難う御座いました。また、更なる説明が必要な方やご質問がある方などおられましたら、どうかご遠慮なく禅昌寺にご連絡下さい。私がお自宅にお伺いしてご説明することも可能ですので、宜しくお願い致します。

古来禅門では、お台所を司る僧を

「典座」と呼んでおりますが、道元禅師は、このお役目に就いた者の心構えを「典座教訓」としてお示しになっておられます。その典座教訓に出てくるみ教えが喜心・老心・大心です。

喜心とは、人間として生まれ、お釈迦様のみ教えに出会えた好縁を喜びする心であると説かれています。

老心とは、老婆心と言い換えることもできますが、自らの貧富を顧みず、ひとえに我が子の成長を念じ、子供が寒ければ、子供に一枚でも多く着せてやろうとする父母の心だと説かれています。

大心とは、偏らず党を組まず、心を大山にし、大海にして、駆け引きや分別をしない心であると説かれています。この三心は、それぞれが別々の心ではなく、水を扱うときも、食材を扱う

ときも、全てのものに子を養うような慈悲と懇意をもって接し、そういう心を実践することを喜びとするならば、大山や大海のように大きな心を持つことが出来るというお示しであります。

人は、自分だけのちっぽけな考えや見識だけで、これは好き、これは嫌い、あの人はどうだ、こうだと、ついつい愚痴を言い、ちっぽけな自分だけの世界で、人生を翻弄されてしまうこともあります。また、偏った考えを共有する者が集まり自分達の考えだけが正しいのだと党を組むこともあります。

偏らない、党を組まない、分別を超え、駆け引き無しの生き方を喜び、共有する人々の集まりを「僧」（僧伽・サングの略）といい、その人々が集まる場所がお寺です。

本年十月に修行いたします授戒会が、そのお釈迦様のみ教えを皆様と一緒に実践し深める最初の機会と成ることを祈念しております。

様々なご都合はあろうかと存じますが、何卒万障お繰り合わせの上、ご参加下さいませようお願い申し上げます。

台掌



光を伝えた人々

—よき人の歩かれた  
あとかたを尋ねて—

当り前の

ことその他に

仏法は無い

従容録 第五則 青原米価

愛知専門尼僧堂 堂長 青山俊董師

衆に示して云く、闍提肉を割いて親に供するも孝子の伝に入らず、調達山を推して佛を庄するも、豈に忽雷の鳴を恐れんや。荆棘林を過得し梅檀林を研倒して、直に年窮歳尽を待て。旧に依つて子監春猶お寒し、佛の法身甚麼の処にか在る。

拳す。僧、青原に問う、如何なるか是れ佛法の大意。原云く、廬陵の米作麼の佃ぞ。

頌に云く、太平の治業に象無し。野老の家風至淳なり。只管に村歌社飲す。那ぞ舜德堯仁を知らん。

一人の修行僧が青原行思さまにお質ねした。「仏法のぎりぎりのところをお教え下さい」と。青原さまはお答えになった。「今、廬陵のお米の値段は、一升いくらしているかね」と、問いとも

答えともつかない一言で。

当時、中国では廬陵産のお米はおいしかったのであろう。日本的にいいかえるなら「今コシヒカリはいくらしているかね」といったところであろう。

第五則青原米価の本則は、たったこれだけである。同工異曲ともいうべき第三十九則「趙州洗鉢」の本則を、ついでに眺めておこう。

やはり一人の雲水が趙州さまにお質ねした。「私は修行道場に入って未だ日が浅く、何もわかりません。どうぞ仏法とか修行の要諦をお示し下さい」と。すると趙州さまは「朝御飯を食べましたか？」と質ねられるので、「はい、いただきますしました」とおこたえすると、「食べ終わつたら、ちゃんと食器を洗っておきなされ」とおつしやつた。三十九則の本則もこれだけである。

私自身にもよく似た経験がある。三十年もさかのぼる話だが。

Yさんは十年程も私の寺にあつて生活を共にした。禅を求め求めて、あちこち話を聞いてまわり、その費用をつくるだけに働くというほどの徹底ぶりであった。寺の台所をまかせてあつたのだが台所の仕事をしている間も、禅の講話を録音したテープをまわしつぱなして、台所仕事はむしろそのあい間にやるという具合であつたから、食事の準備も後始末もつねに間にあわず、流し場は汚れたままの食器や鍋釜がいつも山になつていた。山になつたまま、知識で習いおぼえた禅のむずかしい言葉をひつさげて私の書齋へ質問にやつてきた。

「仏道とか修行とかいうことはね、そういうむずかしい言葉をふりまわしたり、特別のことをするのではないのよ。今、ここですべきことを純一に勤めあげる。たとえば御飯をいただくときは御飯をいただくことに徹してそのほかのことは持ちこまない。御飯をいただき終わつたら食器や鍋釜をガチャンといわせないように心を込めて洗

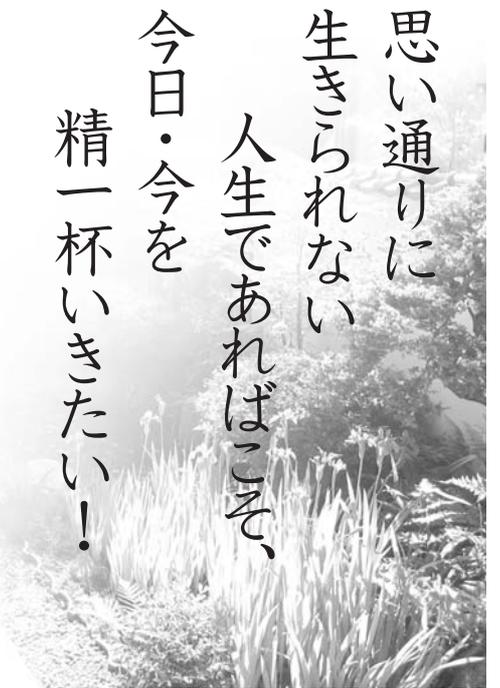
い、それぞれにおさめるべき処へおさめる。そのほかに仏法も修行もないんだよ」

何度これに類した問答が二人の間にかわされたかわからないが、遂にYさんは、鍋釜を洗つたり雑巾がけすることは雑事、俗事にすぎず、夜も寝ないで坐禅をしたり、むずかしい祖師方の語録を学ぶことが仏法の学びや修行という思いこみから脱却することはできなかつた。仏法や修行の真意を何としても伝えることができなかつた自分の無力を、すでに黄泉の客となつたYさんの霊前に、懺悔することしきりである。

この本則に添えられた雪竇さまの頌は、「太平の治業に象なし野老の家風至淳なり。只管に村歌社飲す。なんぞ舜德堯仁を知らん」と、また簡潔である。「太平の治業に象なし」というのは、世の中がほんとうに平和なときは、平和ということすら意識にのぼつてこないであろう。平和、平和と声高に叫ばれるときは、平和でない証拠。限りなく争いが繰り返され、いつ平和が訪れるか出口もわからない中東で一番平和が叫ばれているように。健康であるときは、体のどこもその存在が意識にのぼらず忘れ去られており、どこかが病むと、そこが意識にのぼり、「健康ほどありがたいことではない」という言葉が口をついて出るように。

真に世が、國が平和なときは、太平であることさえも意識にのぼらず、「日上れば田畑に出て耕し、日暮れば家へ帰つて眠り、村祭りがあればおおいに飲んで手拍子たたいて歌をうたつたのしむ。時の天皇や総理大臣が自分たちのために何をしてくれているのか、そんなことはどうでもよい」。そういうあり方こそが、最高に理想的な政治のあり方であり、平和が徹底している証拠だといふのである。

仏法とか修行ということも、そのように、当たり前のことその他何ものでもない、というのである。



思い通りに  
生きられない

人生であればこそ、

今日・今を

精一杯いききたい！

禅昌寺 東堂 横山 正賢

修証義第三章 授戒入位  
第十六節

授戒するが如きは、三世の諸仏の所証なる阿耨多羅三藐三菩提金剛不壞の仏果を証するなり、誰の智人か欣求せざらん、世尊明らかに一切衆生の為に示します、衆生仏戒を受くれば、即ち諸仏の位に入る、位大覚に同うし巴る、真に是れ諸仏の子なりと。

今年十月に新命住職の晋山を記念して営まれる「授戒会」は正にこの修証義第三章「授戒入位」を象徴される法会であります。

授戒会では前節迄の帰依三宝・三聚淨戒・十重禁戒の戒法が「説戒師 青山俊重尼老師」により懇切丁寧に解説され授けられるのであります。

「受戒」すると言つことは、過去・現在・未来にわたり、時代が如何に変わろうとも、諸々の仏

が実証されているところの、無上正等正覚（悟り）は「金剛不壞の仏果を証するなり」と申されるように、何ものにも破壊されることのない堅牢な最上・最勝の拠り所を授かったのであるから、「誰の智人か欣求せざらん」とは、真の智慧のある人ならば欣んで求めるであらう。

「世尊明らかに一切衆生の為に示します、衆生仏戒を受くれば、即ち諸仏の位に入る、位大覚に同うし巴る、真に是れ諸仏の子なり」と此の一文は「世尊明らかに一切衆生の為に示します」というのは、道元禪師のお言葉ですが、「衆生仏戒を受くれば、即ち諸仏の位にいふ……」は「梵網經」と言うお経の中から引用されているのであります。

要約いたしますと、御仏の御命を授かつて活かされていることを再確認し、この御命をおろそかには生きてはならないと誓願し御仏に誓約することと、「位大覚に同うし巴る、真に諸仏の子なり」と不動の信仰が確立できるのであります。

道元禪師は御仏の御命のありようを、正法眼蔵生死の巻に次のようにお示しになっています。（現代仮名づかいで示します）

この生死は、すなわち佛の御いのちなり、これをいといすとすれば、すなわち佛の御いのちをうしなわんとするなり。

これにとどまりて、生死に著すれば、これも佛の御いのちをうしなうなり、佛のありさまをどどむるなり。

いとつことなく、したうことなき、このとき、はじめて佛のところにいる。ただし心をもてはかることなかれ、ことばをもて

いうことなかれ、ただわが身をも心をも、はなちわすれて、佛のいへになげいれて、佛のかたよりおこなわれて、これにしたがいもて行くとき、ちからをいれず、このころをも、ついやさずして、生死をはなれ佛となる、佛となるにいとやすきみちあり、もろもろの悪をつくらず、生死に著するころなく、一切衆生のために、あわれみふかくして、かみをうやまい、しもをあわれみ、よろづをいとうころなく、ねがうころなく、心におもうことなくうれつることなき、これを佛となづく、またほかにたづねることなかれ。

とあります。私の生き方はこの生死の巻のご教示を一生懸命に生きております。

「生死に著するな」ともうされても「はいそうします」と素直に受け入れることが出来ないのが人間であります。しかし信仰をもって生きると言うことは、教えに対して「出来ません」「むりです」とたつではなく、素直に自らに問いただしてみますと、案外「あきらめ」がつくものであります。

私は最近の終末医療の実体を考えますと、素朴な疑問を覚えたことがあります。「いったいあなたは、なんぼうまで生きりやええの」と自らに訪ねる自分がありました。「そーよのー？せめて孫に慕われ惜しまれる内に逝きたいの」という自分がありました。是も生死に執着した自分の姿であります。御教えに照らして、自分に問いかけに思います。

# ◆道心趣味の会◆

## 短歌

- 春うらら桜の宴に舞うさくら  
人も舞いおり車窓に見れば
- 鶯は個々に啼いては存在を  
アリアのごとく聞かせてくれる

東区 矢野 淑子

## 俳句

- いつまでもこの世に居たく唄れり
- 五臓六腑前頭葉迄若葉色
- 嬰が笑ひ母が微笑む春の山

廿日市市 伊藤 順二郎

## ◆行事報告◆(二月～四月)

- 年頭坐禅会・大般若祈禱会(修正会)  
天候不順にも関わらず例年並みの  
参拝者で賑わった。
- 坐禅会 一月一日 午前八時より  
昭和四十二年から始まった坐禅会は、  
今年四十二年目となります。四十年代は  
年頭坐禅会は毎年三十人前後の参加者が  
ありましたが年々少なくなり今年は僅か  
三人でした。  
毎週の坐禅会も若い人の参加が少なく  
なり、最近の皆さんは自己を内観すると  
か、不安・悩みをどのように解消して  
おられるのか?

- 青山俊董老師講演会(二月二十八日(日))  
相変わらず大勢の参加者で老師  
の爽やかな語調に、参加者は一日  
法悦に浸られました。
- 春季彼岸法要・護持会総会  
三月十二日 土曜日  
例年通りお彼岸法要に続き、護  
持会総会が開催されました。今年  
は役員改選の年ですが、秋の大法  
要を控え任期を一年延長してい  
たきました。

- 西国三十三ヶ所観音霊場巡り  
四月八日(木)～九日(金)  
二十四人の参加者で京都を中心  
に第十一番醍醐寺～第十九番草堂  
までの巡拝、この春は連日の天候  
不順でしたが、二日間の巡拝は穏  
やかなお花見日和に恵まれお参り  
する先々の桜が満開で、私の是ま  
での生涯で最高のお花見が出来ま  
した。参拝者は口々に観音霊場巡  
拝の功德を感謝し乍の心洗われる  
巡拝となりました。



西国三十三ヶ所観音霊場巡り (第十六番清水寺にて)

## ●お花見コンサート

### 「TSUKEMEN in ZENDERAI」

ピアノ伊藤 優護持会理事伊藤潤  
様(長男)・バイオリン佐田大陸(音  
楽家)さまさし様(長男)・黒木健  
太の生演奏は心にしみる絶妙な音  
色に二百六十人が魅了しました。



## ◆行事案内◆(五月～八月)

- お盆前諸堂大掃除  
七月二十五日(日)  
午前十時より  
お子さんお孫さん  
とご一緒にご参加下  
さい、二時間ほどで  
終わります、お昼に  
はお素麵を用意して  
おります。
- 盂蘭盆会法要  
八月六日(金)  
午前十時半より

## ● 上田宗箇流茶道稽古日

毎月一回 第二又は第四金曜日の  
予定 午後一時から  
お抹茶と和菓子を楽しんで  
つもりでご参加下さい。

## ● 御詠歌の会

第二金曜日 午前十時より自主練習  
第四金曜日 午前九時より講師を招  
いて練習 昼まで

◎ 茶道の稽古及び御詠歌の稽古は講  
師の都合により変更される場合もあ  
ります。初めて参加される方は、  
お寺に電話にてご確認下さい。

## ■毎週定例行事

- 暁天坐禅会 月曜日～金曜日  
毎朝午前五時十分～五時五十分まで
- 水曜坐禅会  
午後七時より坐禅・茶話会 終了八時半
- 婦人坐禅会 毎週金曜日  
午後一時より坐禅・茶話会 終了三時  
(第一金曜日のみ坐禅の後、写経・茶話会)

## 編集後記

「道心」発刊は、年四回旬刊として  
参りましたが、住職交替の法要を  
控え多忙であるということ・原稿  
が集まらないということ、不定  
期発刊にさせていただきます。

## 原稿募集

皆様の随筆、旅行記、体験談、趣  
味の短歌俳句など何でも結構です。  
お寄せ下さい。